若者の就職進路選択時における意思決定に及ぼす影響要因

～高知県嶺北地域を事例として～

1220472　澤田　幾弥

高知工科大学　経済・マネジメント学群

研究背景

高知県は、15 歳から 29 歳（以下「若者」という）が年間約 2000 人県外へ移住しており、転出が上回っている。他の年齢層では、転入が上回っているところもあるが、若者の転出数に追いつくことはできない。このままでは、人口減少の一途を辿ってしまう。一方、若者の中には地元への U ターンや定住の意識があるが、嶺北地域内での就職や U ターンには繋がっていない。なぜ若者は地元に対する所属意識があるにも関わらず、嶺北地域内での定着にいたっていないのか。その要因は何なのか疑問に思った。事例として嶺北 3 町村（土佐町、本山町、大川村）を取り上げる。

研究目的

本研究の目的は、嶺北地域内外への就職を行った若者に対して、進路選択時における意思決定に影響する要因を明らかにする。1 つ目は就職進路選択時に影響する要因をモデル化し明らかにする。2 つ目は地域内と地域外へ就職した若者の違いと差異を明らかにする。3 つ目は男女と地域間の違いと差異を明らかにする。

調査・分析方法

調査対象者は嶺北 3 町村の小中高のいずれかを卒業した若者（15 歳～29 歳）である。アンケートはグーグルフォームを用いて実施する。資料の送付と調査対象者の抽出は、大川村教育委員会、土佐町教育委員会、本山町教育委員会の方々に協力してもらった。そして、筆者の友人等にもグーグルフォームの URL を送信し、回答をしてもらった。分析方法は居住地、男女、町村ごとに分けて、傾向や差異を明らかにした。

分析結果

嶺北地域（内）在住者は、地域住民との交流などの「社会的環境」と、所属意識などの「地域への愛着」の 2 つの要因が意思決定に大きく影響している。具体的には、「住み慣れた環境や子育てに向いている環境」「地域への恩返し」という意見が多くあった。一方で、嶺北地域（外）在住者は、所属意識等の「地域への愛着」の要因が意思決定に影響したが、「仕事環境」が上回るため、仕事の条件を満たす嶺北地域（外）に進路意思決定を行う結果になった。具体的には、嶺北地域内に「自分の資格を活かせる場所がなかった」「自分のやりたい仕事がなかった」という意見が多かった。

考察・結論

結果から、嶺北地域（内）在住者は、地域住民との交流などの「社会的環境」と所属意識などの「地域への愛着」の 2 つの要因が強く影響しているため、定住が続くと考える。一方で、嶺北地域（外）在住者に定住してもらうためには、仕事の条件を満たす要素が嶺北地域（内）にあれば、地元への U ターンや定住に繋がると考える。